

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390200238		
法人名	医療法人社団 明佑会		
事業所名	グループホーム ひかり		
所在地	熊本県八代市渡町1717番地		
自己評価作成日	平成27年3月14日	評価結果市町村受理日	平成27年5月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成27年3月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成26年4月同敷地内に、クリニック、通所リハビリ、有料老人ホームが開設され、年間行事(運動会、花火見学、慰問見学等)を合同で行い、地域の方への参加交流を促しています。週に一回は理事長を交えたケアミーティングを実施し、現状報告を行い、急変時の対応等についての勉強を行っています。質の高いケアを提供できるよう法人内、外、研修の参加の機会を促し、1人1人の職員のレベルに合わせた教育を行い、認知症の理解を深め、地域の皆様と一緒に運営推進会議活動などを行っていききたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

この一年も職員がチームワークを持って入居者支援に関わり、反省や努力すべき点を探し、次に進みたいとする思いは今回の真摯な自己評価にも表れている。敷地内にクリニックや介護施設などが開設したことで、更に地域の医療・福祉を支える法人への期待も増していくと思われる。管理者は入居者に関わる一人の介護職職員として日々熱意を持って業務にあたっており、また、支える職員もひかりの職員として生き生きと笑顔で入居者・家族に関わる姿が印象的なホームである。写真やパソコン内に収められた記録から外出や地域交流をはじめとした入居者の日常が手に取るように伝わってくる。花火大会や妙見祭など八代ならではの行事に加え、地区公民館の祭りなど地元の良さが残る地域環境にあることも、入居者に温もりや安らぎを与えているようである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>いつも職員の目につくところに理念を貼り出し意識付けを行っている。 昨年5月より同敷地内にクリニックも開設し理念の一つである全人的医療と看護介護を提供します。の共有も実践出来るようになった。</p>	<p>開所時に作成された三項目の理念には、長年地域医療に貢献してきた法人の志を継承したいとする思いが込められており、同理念で今年度をスタートしている。玄関・フロアー・事務所内への掲示や運営推進会議の中でも説明を行うなど関係者への啓発・浸透を図っている。また会議での唱和により、職員の意思統一を図っている他、管理者は常勤に限らず入居者に関わる全ての職員への浸透に努めている。</p>	<p>管理者は今後、理念を生かした支援ができるよう一人ひとりのケアプランに照らし合わせた目標を掲げていきたいと意欲を語っている。取り組みが期待される。</p>
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域で行われている行事への参加、町内での資源回収への参加(2/月)。地域への行事へは区長、民政委員より運営推進会議時に情報を頂き、参加している。昨年9月の納涼祭には多くの方に参加して頂きました。</p>	<p>ホームは地元が誇る妙見祭や花火大会など八代を楽しめる環境にある。この一年も資源回収への参加や運営推進会議で出された情報を生かしながら地域への様々な外出の機会(どんどや・公民館の祭りなど)が持たれている。昨秋に同敷地内クリニックや施設と合同で開催された納涼祭には、地域より300名以上の参加があり好評を得たようである。また、開所時から交流のある近隣のコンビニ店からも出店協力を受けている。ホームパンフレットには、「交流の場」として、地域交流スペースや・菜園・コミュニティスペースを地域にも提供することが記されている。</p>	<p>昨年5月に開設した法人クリニックとも連携を図りながら、地域の医療・福祉を支える事業所としての活躍に期待したい。</p>
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>運営推進会議で地域のお年寄りの情報を頂きアドバイスをを行い、気軽に来所して下さるよう声掛けは行っている。 利用者御家族様、近隣の方の相談等。</p>	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回利用者の状況を報告している。事例発表を行うまいかないケースなどにはアドバイスを頂きケアに取り組んでいる。	今年度2ヶ月ごとの開催が実現しており、入居者状況やホーム内行事・地域活動・感染対策などホームの現況が丁寧に報告されている。メンバーも昨年同様、家族代表者や有識者・町内会長・行政・包括など多方面からの参加により有意義に進行されていることは議事録や聞き取りからも確認された。また、会議には法人代表者も参加しており、看取りに関する質問では医師の立場として、家族の思いも汲み取ったグループホームとしてのふさわしい支援が話されている。	地域代表者からは身近な情報が報告され、今年度も「こうだ地区公民館祭り」を入居者も見学できたようである。今後は家族の参加に繋がるような工夫を行い、入居者の代弁者としても発言を得ながら引き続きサービスの向上に繋がる会を重ねて頂きたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通じてホームの状況を説明し、事例と一緒に検討して頂いている。行政からの報告、研修会への参加の情報も頂き参加している。	行政への運営推進会議の案内を電話やファックスで行っており、特に電話では近況なども報告している。会議資料からもホームの理解者として適宜アドバイスや指導が行われている事が確認された。また、研修会の情報を受けた際は可能な限り参加し、職員のレベルアップに繋げている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会への参加を行い、身体拘束の事例を通じて学習している。スピーチロック「ちょっと待って下さい。」はまだ時々聞かれる為注意している。	身体拘束について、ホーム内外の研修会を始め、日頃から気になることがあればその都度振り返ることとしている。「ちょっと待って」などスピーチロックについては、この一年随分少なくなっているが、まだ時々職員の発する声が聞こえており、今後も語尾やイントネーションも含め入居者に失礼の無い対応に意識を持って取り組みたいと語っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修会への参加を行い意識を高めるようにしている。抵抗がある時のケアについては二人でケアしストレスをためないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し学習している。 スタッフ間での理解は不足しており、活用までは至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	担当者会議の時、要望があれば説明を行っている。訪問、面会時は現在の状況を報告し不安な事、要望が聞けるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加して頂いた利用者様、ご家族様には意見を求めるようにしている。参加できない御家族には来所時要望を聞きケアに取り入れるようにしている。	担当者会議や普段の関わりの中で、入居者の意見・要望を確認している。家族からは推進会議の席をはじめ、来訪時や電話連絡を行った際に聞き取っており、「自然や外の空気にふれて欲しい！」など、外出支援に関する要望が出されている。また、入居時に公的機関の相談窓口や、ホーム内においては電話・ファックスに加え、携帯やメールの連絡先も伝えるなど家族がいつでも相談ができるよう配慮している。	家族から出された「自然や外気にふれる機会」への要望は、あらたまった外出ではなく、デッキや玄関先、敷地内の散歩や、身近な野の草などをホーム内の環境に加える事も一案と思われる。野いちごやつくしなどホーム近隣の環境を職員でまずは再発見してみたいかがであろうか？
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のホームミーティングで部課長会議での理事長の運営方針を説明したり、決定事項を報告している。又困り事や皆の意見を聞き不安を取り除くようにし、運営についても発言を求めている。	管理者は日頃から共に業務にあたる一人として、職員の意見や提案が活かせるホーム作りに努めている。また、法人の介護部長とも連携を図りながら、入居者の現況や職員の勤務体制など代表者へ必要事項が報告されている。働きやすい職場環境であることはこの1年職員のチームワークにも表れており、生き生きと業務にあたる姿は入居者の笑顔を引き出し、家族の信頼にも繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修等の案内を提示し、希望があれば参加できるようにしている。勤務表作成前に希望休みを聞き取り入れ有給も消化するようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム部会の研修には勤務者以外は参加するようにしている。事業所内の研修、外部の研修にも参加を促している。(レクレーション、認知症ケア参加)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会の活動を通して交流を行っている。懇親会にも参加し情報交換をしている。又事例発表を行い他事業所のケアを参考にしサービスの向上に役立てている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当者会議で、ご家族の訪問時に現在のサービスの状況の説明をし本人、御家族の希望を聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の要望を傾聴し家族の思いに添えるケアが出来るよう努めている。少しの変化でもご家族に報告するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	同敷地内のリハビリ施設の利用を週2回利用して頂いている。他のサービス利用も必要に応じて行いたい。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみやテーブル拭き等、本人が出来る事をやってもらっている。切り干し大根作り、漬物、干し柿作りは一緒にアドバイスを頂きながら行った。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族訪問時には管理者や担当のスタッフが付き添い近況、状況を説明している。状態の変化時は速やかに連絡を取り報告をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族と協力し行っているが限られた方になってしまっている。月に一度は実家に帰られたりされる方もいるが軽度の方が主である。良く面会に来られている方の日帰り帰宅の支援も行いたいと考えている。	定期的に自宅へ戻りひと時を過ごされる方の支援や、ホームへ家族や友人が面会に訪れた際は、ゆっくりと過ごしてもらうよう配慮するなど、本人にとって大切な人との関係が途切れないように努めている。また、特技やこれまでの人生を思い起こせるような設定を行っている。例えば、干し柿作りでは皮をむいた後湯に通すことや干している間に揉むことで軟らかくなるなど先人の知恵が活かされ、美味しいおやつのひとつ品として懐かしい味を提供している。また、河川敷での消防団出初式を見学された男性入居者が、現役時代を思い出し感無量の表情をされていることは、記録写真にも残されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	なかなか食事が進まない方への声掛けやお世話をさせていただいている。外出時スタッフの見守りは必要だが車いすを押して頂いている。一緒に簡単な清掃、洗濯物たたみも行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人、御家族の必要に応じて相談や支援に努めて行きたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本当の本人の希望、ニーズに添えているのかと思う事もある。週一回のケアミーティングで現状の報告は行っているが日常のケア中心になっている事が多い。	ケアミーティングには法人の作業療法士も参加し、入居者の状態報告や職員が気づいた事項などを共有している。自身の思いをなかなか発せられない方もあり、家族にも尋ねながら本人本位の支援となるよう努めているが、管理者はまだまだニーズを十分に把握できていない部分もあるとこの一年を振り返っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族の方の面会時に本人も交え昔の話等を伺っている。現役の頃の話を取り入れコミュニケーションを取るようになっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェック、心身の状態を観察し記録している。生活のリズムを作り、規則正しい生活が出来るように心がけています。リハビリ施設を利用し心身機能の維持を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者を決めてプラン目標についての評価を行っている。毎日の勤務の申し送り時その日の気づきを出し合いケアを振り返りプランに沿ったケアを認識出来るようになっている。	計画作成担当者は本人の意向や家族からどういうふうに住生活して欲しいのか聞き取りしている。入居者の担当職員を中心に医師や作業療法士など関係者の意見やアイデアを生かしたプランが作成され、2～3ヶ月のモニタリングや状況に変化があった時点で見直しが行われている。家族への説明はわかりやすく、要望等はいつでも話して欲しいと伝えながら承諾を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づき等があっても記録に記入してなく、共有できていない事がある。(口頭では伝えているがスタッフ間で情報が共有されていない。)		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	八代事業所で連携をとり見守りやレクリエーションの合同開催を行っている。交流を作り情報交換を増やしニーズに繋げたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	校区の祭りに参加したり、ボランティアの方と畑仕事をしたりしている。散髪も2月に一回来ていただいている。敷地内のゴミ平井もしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	昨年5月よりひかりクリニックにて8名定期受診を行っている。一名は峯苦医院へ通院、眼科受診も2名いる。	全入居者が法人医療機関(2ヶ所)での定期受診を受けており、昨夏敷地内に開業したクリニックへは散歩を兼ね、徒歩や車椅子で出かけている。また、法人医師は職員ミーティングや運営推進会議に足を運び、必要な情報を伝えながら入居者の医療をバックアップしている。	管理者は現在不定期に実施している体重測定を新年度からは毎月行い、健康のバロメーターとしてケアに反映していきたいとしている。実現に期待したい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	クリニックが出来24時間何かあれば連絡し状態報告し指示を仰いでいる。 毎日の状態等異常があればその都度報告し対応して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面談や電話連絡を密に行い状況を確認している。退院後の対応、注意事項等医師に確認している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについての研修会に参加し学習している。利用者の状態によりケア会議を行い家族の意向や本人の希望等理事長を交え再度確認して話し合う機会を作る。	「指針」を作成しており、重度化や終末期に向けたホームの方針を明らかにしている。法人医師は受診の際、必要な時点で家族の意向を確認しているが、そのたびに変化する思いにも当然のことと受け止めており、入居者に最良の方法を検討している。重度化やインフルエンザなどの感染症対策には別室を準備し安心して過ごしてもらうよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応の研修会に参加している。定期的に参加し訓練を行っていく必要がある。急変時や夜間の対応に不安があり支援が必要である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	八代事業所全体で訓練は実施した。安全に配慮した訓練が必要である。地震対策については認識が甘い様に感じる。食糧、飲料水は厨房にて管理している。	昨夏、同敷地内にある各事業所との合同訓練を実施し、他からの情報の遅れが課題として上がっている。地元消防団によるホーム内の配置確認や、離設の際の協力依頼など体勢作りはできており、備蓄の確保や地域避難所として災害時に利用してもらうよう啓発している。	備蓄品については複数の法人施設が共有しており、チェックリストで確認して内容を把握しておく必要があると思われる。また、今後はホーム単独での自主訓練や自然災害に対する訓練の実施が期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の人格を尊重して言葉遣い等気を付けているがまだまだ徹底できていない。トイレ時の対応等配慮が足りない場面もある。接遇委員会が発足し学習中である。	管理者は言葉使いについて敬語ばかりだと堅苦しくなるが、方言を交えながら親しい仲にも節度ある対応をするよう機会あるごとに職員に伝えている。法人の接遇委員会にはホーム職員も加わり、復講により全員が共有する場を持っている。個人情報保護や守秘義務については家族の同意と職員の共通認識を持って対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けや本人の表情発語等をくみ取り思いを知ろうと努力しているが上手く聞き出せない事もありスタッフの都合で決めていることもある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	定期的に外出、ドライブ等を行っている。その日の希望に対しての声掛けや気分等を配慮した声掛けは不足している。希望に沿った対応を心掛けたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は定期的に行っているが、日常的におしゃれが出来るような支援は出来ていない。気候に合わせた服選びになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	下膳や台拭き、お盆拭き等手伝って頂いている。炒り子の下ごしらえ、干し柿作り、切り干し大根作りは一緒にいった。お誕生会の手作りケーキの飾りつけも一緒にいった。	食事は法人での一括調理であるが、毎回の朝食や時には汁物を作ったり、ホームベーカリーで手作りパンを焼くなどできることで食に彩を与えている。誕生日は家族と一緒に祝い、職員も同じものを摂り会話を楽しみながらゆっくり対応している。	職員も皆同じ料理を食べており、内容を記録し調理担当者へ声を上げることで今後の支援に反映されるものと思われる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分をなかなか摂取されない入居者の方には補水ゼリーを提供している。食事にもムラがある方には一日の摂取量で栄養状態を観察している。ムセや口腔の状態が悪い人にはミキサー食で対応している。管理栄養士がメニューを作成している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ホームではなかなか口腔ケアが難しい方は週に一回訪問歯科の利用を行っている。歯ブラシを使用して介助を行っている。義歯の方は夕食後外して洗浄している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声掛けを行いなるべくトイレにて排泄をしていただけるよう心掛けている。日中はリハパンで対応している方が4名いる。下剤等の服用もあり誘導のタイミングが合わずに不快な思いをされている時もある。	自立の方を含め日中は声かけや誘導によるトイレでの排泄を基本としている。職員は入居者の様子観察に努め、タイミングを逃さないよう努力している。夜間帯にはポータブルトイレを利用する方もおられるが、衛生的に管理し入居者が使いやすい環境を作っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の物や牛乳、ヨーグルト等の乳製品を意識して食べて頂いたり、運動や腹部マッサージを行っている。薬の服薬後も状態の変化を観察している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	晩白柚の皮を浮かべ晩白柚風呂を実施した。更衣室と浴槽との温度差を無くすように出来るだけゆっくり入っていただけできるようにしている。	これまで午後から支援していた入浴を、午前中に切り替え食後はゆっくり過ごしてもらうよう時間の変更を行っている。広い浴室は特に冬場の温度低下に注意を払い、マンツーマンでしっかり温まってもらうように注意を払っている。また、入浴後は水分を十分に摂るよう心がけている。	今一度同性介助への希望を確認したり、特産のばんぺいゆの他に、変わり湯支援や告知ポスターを検討するなど更に入浴が楽しくなるよう職員の工夫を期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	長時間座位の状態にならないよう午後には居室にて休んでもらっている。畳コーナーもあり好きなように横になって休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変更になった場合等はしっかりと職員間で申し送り、注意をしている。処方箋ファイルを作り対応している。薬剤師の先生にも確認し不安な事は聞くようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る人中心になっている。上手に表現できない人への対応を考えて行きたい。コーヒー、ジュース等時々提供を行っている。散歩、ドライブ、買い物等気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援はなかなか出来ていない。近所への買い物や散歩はあるが本人が希望する所等にはなかなか外出が出来ていない。通所のワゴン車を利用し車いすの方もドライブ行けるようになり頻度を増やしたい。	天気の良い日は広い敷地内を散歩したり、近くの河川敷きまで出かけ、四季の移り変わりを体感している。一人で出かける方には職員が後方からそっと寄り添い行動を妨げないように配慮している。通所事業所の車両を借りれるようになったことから、車椅子や多人数での外出が可能になり、桜見学が実現している。定期的に自宅へ戻りひと時を過ごされる方、地元神社で行われた餅投げでは入居者も懐かしく参加されたようである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際は自由に品物を選んで買って頂いている。お金を自分で持って支払う能力のある人が少なく職員が管理している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時はいつでも好きな時に電話をかけても良いが訴えある時には職員が対応している。手紙の場合は代読し内容を説明している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎に入居者と壁紙作りを行っている。季節の花もなるべく飾り季節感を味わってもらっている。気候の良い時はウッドデッキに出て日光浴を行い風や、匂いを感じて頂き感覚に刺激を与えるようにしている。温度管理はフロアのスペースが広いため廊下のドアを閉めて適温を心掛けている。	リビング南側の大型の窓からは日の光が十分入り、行きかう車の流れや遠く桜の花までが視界に入り、入居者に開放感ある空間を提供している。食後のひと時は職員との会話も弾み、段上がりの畳で横になるなど、普段どおりの様子が確認された。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳コーナーはゆっくり出来る空間であり昼食後 何名か横になって過ごされる。テレビの前のソファが少ない場面も見られ検討中である。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人らしい居室は少なく利便性が優先しているように感じる。居心地が良く過ごせるよう季節を感じられるよう配慮していきたい。	各居室にはクロゼットが備えられており、日常使用しない物品の収納によりスッキリと安全な空間となっている。また、家族の来訪時には入居者と楽しいひと時が持てるよう配慮している。衣類の入れ替えなどは、破損などが無いか確認しながら職員が中心に行っている。	衣替えなどは現在職員が中心に行っているが、今後は衣類の管理などについても家族にも協力を呼びかけ、一緒に支援していくことも必要と思われる。家族の集まる機会に支援の呼びかけを期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はバリアフリーである。フロア内の動線には全壁手すりも設置してあり移動時の安全は確保している。 トイレの表示も行い分かりやすくしている。		